

三陽機器がタイに開設した新工場。フロントドーザーの増産体制を整えた



三陽機器

タイ工場を拡張

東南アジア向け 農機増産へ

農業機械メーカーの三陽機器（岡山県庄町新庄）は、東南アジア向けトラクター用作業機の増産に乗り出す。タイの工場を拡張し、生産能力を2倍に増強。国内の農機市場が縮小傾向にある中、農業の機械化が急速に進むタイや周辺諸国の市場開拓を急ぐ。

三陽機器は2008年、世界有数のコメ輸出のタイに100%出資の現地法人を設立。首都バンコクの南東約80キロに位置するチョンブリ県に初の海外生産拠点を開設し、昨年11月から農地の整地に使ったトラクター用作業機「フロントドーザー」や油圧機器を製造してきた。

タイは経済発展で農機需要が拡大しているが、ほ場整備が不十分



タイは経済発展で農機需要が拡大しているが、ほ場整備が不十分

そのため、フロントドーザーの一層の需要が見込めると判断。今年2月、同じ工業団地内の建物（鉄骨2階延べ3750平方メートル）を新たに借り、旧工場（鉄骨

2階延べ1800平方メートル）からプレス機や溶接機などを移設してフロントドーザーの専門工場を整備した。

専門工場には、加工の精度を高める三次元測定器も導入。生産能力を約2倍の月1500～1600台に引き上げ、来年もフル稼働させる。旧工場は油圧機器の製造に特化する。

投資額は1億円。現在はタイ国内での販売が主だが、将来的には同じ稲作地帯のカンボジアやラオス、ミャンマーなど周辺諸国にも輸出。現地のほ場整備が一段落すれば、主力製品のトラクター用油圧式積み込み装置「フロントローダー」の生産も始める計画。

寺前公平社長は「東南アジアは将来、人口が増え続けるインドの『食料基地』になる可

性能がある有望市場。農機の本格普及をにらみ、布石を打つ」と話している。

同社はトラクターの前後に取り付け、牧草や稲わらの運搬などに活用するフロントローダーの国内トップメーカー。1966年設立。資本金6600万円。売上高約23億円（2010年5月期）。従業員約90人（パート含む）。（大河原三恵）